

1 自己評価及び外部評価結果(Bユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400805		
法人名	株式会社成田建設		
事業所名	グループホーム いこいの里		
所在地	青森県五所川原市相内222番地1		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にあるとおり、当ホームは利用者様に、楽しく生き甲斐をもって安心できる生活の場の提供を目指している。そのため、利用者様の状態に合った生活で、自分の家にいるように楽しく過ごせるようにしている。また、共同生活の中の利用者様の能力に合った役割を持っていただき、活動の中から生きていく喜びを感じられるようにして行くことで、“いこいの場”を提供できるようにしている。毎月、技術指導会議を開催し高齢者の疾病について学んでいる。利用者様がより心地よく安心して過せるように、日々職員間で相談し合い、工夫して対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は地域密着型サービスの役割を理解し、独自の理念を持って、地域と共いこいの場の提供に努めている。理念は朝の申し送りで確認し、理解してもらい、理念に基づいたサービス提供を行っている。理念の実現と維持、サービス向上を目指し、毎年事業目標として活動を計画している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、近隣小中学校の行事に参加したり、地元の祭りをホームの駐車場で跳ねてもらおう等、利用者様に楽しんでいただいていたが、今年度はコロナ禍のため中止となっている。また、地域貢献として交通安全運動で、いこいの里オリジナルマスコットを作成して提供し、交通安全運動に貢献している。管理者は町内会の役員として活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は町内会活動を通じて、町内会の人に福祉サービスの利用相談や認知症について案内をしている。また、利用者のプライバシーへの留意を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催している。現在は休止中の為、委員に資料送付後、要望や意見、助言を受けている。会議では、外部評価結果や各アンケートの結果について報告し、委員の皆様から意見をいただいで改善に役立てている。また、年度毎の運営状況や事業計画とその成果について報告している。職員定期面談結果等も報告し、助言をいただき、サービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市職員や民生委員、利用者ご家族様、地域住民等に出席していただき、意見また助言をいただいている。外部評価確定後は、市の介護福祉課や地元の在宅介護支援センター、協力先である病院や特別養護老人ホームにも報告している。運営に関わる疑問やサービス提供に関する事柄の判断に迷った場合は、市や各関係機関の担当部署に相談して助言をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務室に「身体拘束の原則禁止」を掲示しており、身体拘束は原則禁止としている。切迫性や非代替性、他者への危険行為等のやむを得ない場合は、ご家族様に理解してもらい、同意を得て行うものとしている。基本方針は指針に示し、職員に周知している。3ヶ月毎に委員会を開催し、身体的拘束廃止の取り組みとして事案の確認及び適正に対応できるように活動している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルをもとに虐待防止できる運営体制を構築している。申し送りの際に、職員に対して高齢者虐待防止関連法の5つの定義において確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、採用時に新人研修の中で理解を求めている。市の地域ケア会議に出席し、困難事例を扱ったグループワークに参加して理解を深めている。今年は新型コロナウイルス感染防止のため出席を控えている。日常生活自立支援事業は、利用者様が制度を活用しており、社会福祉協議会と協力してサービスの安定利用を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、地域密着型サービス内容やホームの理念、ホームの重要事項、個人情報取り扱い、看取り指針、運営規程、外部評価の結果について説明し、契約している。また退居に関する条件や退居時の支援に関しても説明し、了解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明で苦情や相談窓口の案内をしている。毎年、独自のサービスアンケートを利用者様とご家族様に案内し、意見や苦情を引き出し、想いや要望を把握している。アンケート結果は全体会議、運営推進会議で報告し不足な部分に対しては改善対応を図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月の全体会議を通して、運営状況の報告を行うほか、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、定期的に職員面談を行っており、改善点や提案、希望等を聞いている。その他、ユニット責任者が職員の意見を取りまとめ、対応を検討している。勤務シフトは、有給日以外に希望休を設け、職員の休暇希望に応じている。異動の際は、異動日前に異動ユニットで研修を行い、職員や利用者様に負担や影響がないようにする等、計画して実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者と管理者は、評価制度を導入し、職員の能力に応じた技術等級を設けている。適切な職務への配置や役職登用に活用している。職員の資格取得を推奨しており、資格取得の後押しをしているが、資格取得を目指す職員は少ない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は年度毎に研修計画書を作成し、職員へ研修受講を促している。外部研修は会社から受講料を助成している。また、会社が推薦する研修は、受講料を全額助成し、研修日は有給としている。また、受講後は報告書を回覧し、知識の共有を図っている。毎月、技術指導会議を開催し、知識の習得を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入し、協会が提供する情報また研修を活用している。代表者や管理者、一般職員も他のグループホーム職員と交流し、運営やケアに関する意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	概況調査にシートを利用し、十分な時間をとりながら本人の思いや困っていることを聞き出している。担当ケアマネジャーや関係者等から状況や問題解決についての情報提供と協力を求めている。相談を受ける際には、利用希望者との信頼関係を築くことを意識しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より相談があったときには、利用を前提として話を聞くのではなく、まずは家族の思いや希望、ニーズを把握するように努めている。その中で家族が求めているサービス等の情報を提供することで信頼関係が構築されるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人、家族のニーズに対してその時点で何が必要かを見極めて支援している。他のサービスが必要であれば、他のサービス機関とも連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者には得意分野で力を発揮できるよう職員は一人ひとりのレベルを把握し、共同しながら生活している。具体的には食材の下拵えや洗濯干し、たたみ、洗面台の掃除、シュレッダー作業、新聞紙をたたむ等してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いこいの里だより等で健康状態や通院状況を家族様に伝え、支援している。また、キーパーソンの面会時、本人の体調を伺い、病気の相談や心配事の相談にのっている。利用者の通院付き添いが可能なときは受診協力をお願いしている。ご家族と協力して支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに支払いに来たとき等は面会してもらうようにしている。他ユニットに知り合いの方がいる場合は、玄関にて面会する等の交流を図っている。今はコロナ禍のため、なかなか外出できてない状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に出来るシュレッダー作業や食材の下拵え、排泄等で使用するための新聞紙の仕分けを話をしながら行ったり、分からない人には教えながら行っている。作業をすることで指先を使用することがいいと話し、笑いながら行っている。できる作業とできなくなってきている作業を見極めながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となっても、他の入居先へ家族と一緒に施設見学や申込に行ったり、退居先の生活を電話で伺ったりしている。入院による機能が低下し、ホームでのサービスが難しい方でも、家族よりホームで生活させたいと望まれる際には、スタッフで話し合い希望に添えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カラオケで楽しんだり、新聞紙や洗濯物をたんでもらったり、シュレッダー作業をしてもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートで生活歴及び入所までの経過を把握している。また、再度聞き取りを行い、利用者への対応に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を取ることで、その日の出来事、身体の調子等、利用者の日々のケアの改善に努めている。スタッフ同士の情報も共有し見守りを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でカンファレンスを行い、十分に話し合いをすることで気づきを反映させた介護計画を作成している。計画書は家族の希望や本人の状態変化により随時見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践、結果、気づきを介護記録、連絡帳に記入し、トイレ、排泄の記録等参考に申し送り、薬の調整を図っている。不穏状態、夜間の独語等ミニカンファで意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族様の要望を聞きニーズに対応できるように検討している。 毎年、家族様、利用者様にアンケートを行い、要望や意見を伺い、サービスの改善が図られるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方に消防訓練参加協力を得ている。交通安全運動として、利用者様と一緒に制作した交通安全オリジナルマスコットを地元の交番に協力してもらって運転手に提供している。地域の行事に参加し、地域との関わりを大切にしている。市の地域ケア会議に出席し、地域資源の活用についての認識を深めている。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、出席を控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と一緒に通院したり、薬の入手に協力をしていただいている。利用者及び家族等の協力希望を大切にし、かかりつけ医に相談して適切な医療を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝のバイタルや入浴前のバイタルサイン、健康管理データを確認しスタッフと情報交換し、異常が見られた際にはかかりつけ医への受診につなげている。24時間オンコール駆け付け受診を同行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるよう家族及び病院関係者と情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのホーム方針を明確にしており、入居契約時に案内している。ご家族様から重度化した際の希望を伺い、希望する際には前もって待機者として特別養護老人ホーム等に繋げている。協力医療機関には、約定書を交わし、協力してもらえ体制となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1、2回、近くの消防署に依頼して普通救命講習を行っていただいております。急変時に備えている。また、緊急時マニュアルには救急時情報提供書を備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年3回実施している。うち1回は、夜間を想定して実施している。訓練の際は、近隣の方々にも参加していただき、安全な車いすの操作の仕方や誘導方法について訓練している。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、近隣の協力者の参加はなかった。毎日、避難誘導灯と消火器の確認を行っている。また、業者による消防用設備点検を年2回実施している。災害対策マニュアルを設置し、災害時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りや羞恥心に配慮した声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉がなかなかでない場合、動作や表情を観て利用者が自己決定できるように、待ったり促す場面を作ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、利用者のその日の体調やペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、床屋さんに来てもらいカットしてもらっているまた、。家族の了解を得て不足の衣類を購入したり、入浴後に着る服を選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム裏の畑から野菜を収穫することができ、利用者が楽しみにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量と水分量は一人ひとり摂取量を把握管理しており、適量への調整を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや誘導等しながら、一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声掛けやトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックをしている。一定の期間排便がない方には、主治医の指示に従って便秘薬を服用いただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	一人ひとりが入浴を楽しんでいただけるように、お湯の温度を確認し、要望に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの1日のリズムに合った生活が送れるように、その日の体調等に応じた活動や休憩、昼寝をしていただいて、夜間安心して眠られるように支援している。在宅時に眠剤を服用していた利用者には、家族や医療機関と相談しながら調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ同士声掛けを行い、利用者の名前を確認しながら服用していただいている。介助の必要な方には、確実に服用していただくようにスプーンを利用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗面台の掃除、洗濯物のしわ伸ばしや食材の下ごしらえ等、その人にできる手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	今年は新型コロナウイルスのため、外出を控えているが、本人の希望により自宅へ外泊している、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	直接使うことは少ないが、家族に了解を得て利用者が必要とするものを購入するように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、家族と電話で話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けたり冷房を使用する等して温度調整を図っている。中庭には季節の花を植えており、利用者様が窓から見て楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで利用者同士、話をしたり、テレビを見たりしている。テレビを持ち込んでいる方は居室で見たりと、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でテレビや本を見たり、昼寝をしたり、たまに家具の移動をするなどして楽しんでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に応じて、手すりを設置している。また、入院等でレベルが低下し、歩行困難や寝たきりに近くなった利用者には、電動ベッドをリースしたり、車いすや移動ボードで対応して、安全に生活が送れるように工夫している。		